

令和6年度 最終報告会

ICTを活用した 自立支援型サービス推進事業

2025年 3月 6日



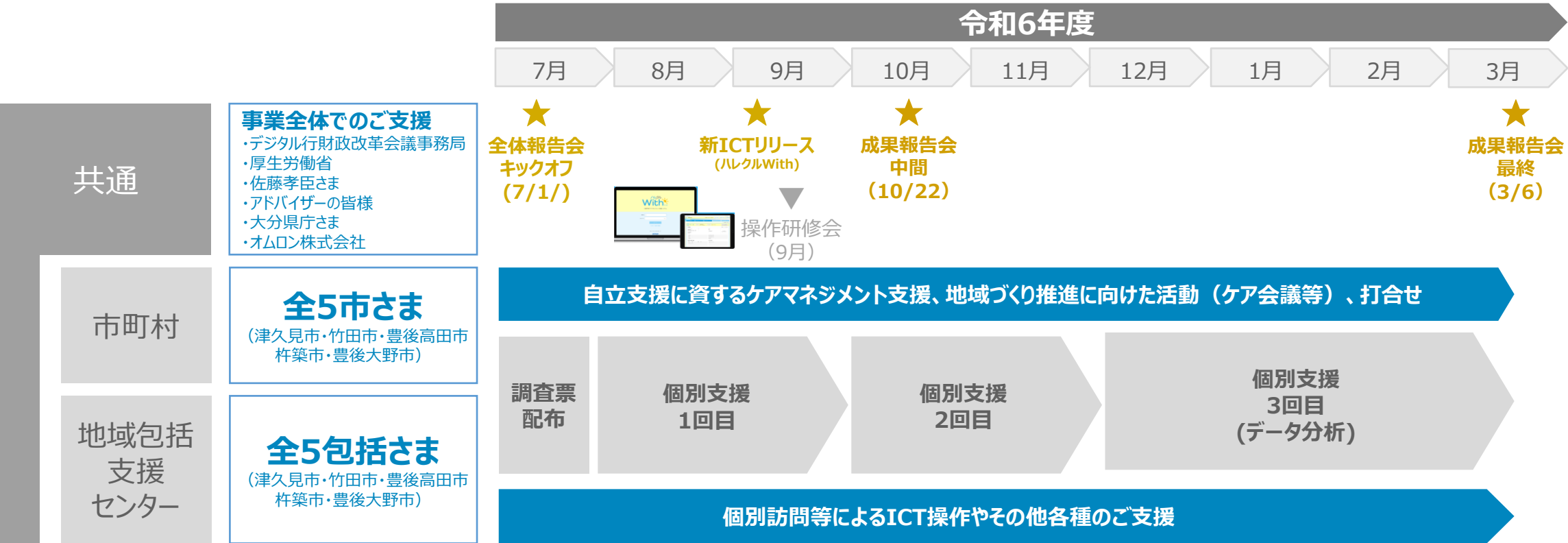
オムロン株式会社 データソリューション事業本部 自立支援事業部

ICTを活用した更なる介護予防ケアマネジメント・地域づくりの推進へ

目的	①ICTの更なる活用による効果的・効率的な介護予防ケアマネジメントの推進 ②取得したデータを活用した総合事業の充実（地域デザイン）
実施内容概要	デジ田 TYPE S(先行挑戦型)を活用し、ICTの更なる企画・開発を行い、介護予防ケアマネジメントの更なる質の平準化・業務効率化を図る。また、ICTに蓄積したデータを活用した地域づくりの充実を図る。 1. AI等デジタル技術の活用によるアセスメントの高度化 2. アセスメント結果を踏まえた課題の分析等、効果的・効率的に予防プランの策定を支援 3. 給付管理・請求機能との連結企画・推進
期間	2024年7月1日～
関係者	デジタル行財政改革会議事務局/厚生労働省 大分県 県下市町村（協力） 一般社団法人自立支援・地域づくり推進機構（CODIC） オムロン 国 ● デジデンTYPES（補助金）の交付 市町村 ● 実証フィールドでの立上げ・検証 ● 包括支援センタ・事業所等との調整 大分県 ● モデル事業企画・計画 ● 市町村へのICT等導入支援/伴走 オムロン ● ICTの開発・提供 ● データを活用した地域デザイン ● 事業検証の取りまとめ等 CODIC ● 事業アドバイザー ● 専門職派遣 ● 研修実施 協創で 効果検証

令和6年度事業の全体スケジュール

新たな介護予防ケアマネジメント支援ICTを開発し、人による伴走支援も組み合わせながら事業を推進。
本日は最終報告会として、事業成果を共有させていただく。



当初の狙いを成果として達成

ICTの活用による効果的・効率的なケアマネジメントの推進、データを活用した地域づくりで大きな効果を導出。

目的	KPI(成果目標指標)		成果	
1 ICTの更なる活用による効果的・効率的な介護予防ケアマネジメントの推進	予防プラン策定件数 156件	✓ 地域包括支援センター業務におけるICTの浸透	予防プラン策定件数 301件	✓ KPIの約2倍の活用件数を達成。 ✓ ICT活用範囲はC型以外のサービスへ拡大（活用件数の約4割が他サービス）。
	アセスメント及び予防プラン策定に要する時間 20%削減	✓ 介護予防ケアマネジメントでの業務効率化	平均11~27%時間削減 (業務別では最大37%)	✓ 活用件数が増えるほど、業務効率効果が大きくなる結果に。 ✓ 帳票・プラン作成時間が最も短縮。
	介護予防ケアマネジメントによる課題を感じる項目の減少 20%減	✓ 介護予防ケアマネジメントの質の向上、平準化(特にアセスメント)	項目の減少83~100% (課題程度の変化量は8~25%)	✓ 活用件数が増えるほど、質的・平準化効果が大きくなる結果に。 ✓ 状態像見極め、目標設定で効果大。
	C型サービス利用者の卒業時の自立生活の割合※60% ※介護保険サービスを利用しなくなる	✓ アセスメント力の向上による適切なサービス選定力向上 ✓ C型事業所との連携	C型サービス利用者の卒業時の自立生活の割合※74% ※介護保険サービスを利用しなくなる	✓ 状態像の見極め力の向上により、C型の改善率などに寄与した可能性。(中断率の低下にも寄与した可能性)
2 データを活用した自立支援に資する地域づくり	— (指標設計なし)	✓ データを活用した自立支援に資する地域づくりの推進	アンケート結果調査の結果として 地域づくりに効果あり (保険者5市/4項目/4段階評価)	✓ データ利活用で、地域の状態把握や課題抽出・施策検討に効果。 ✓ 関係者の共通認識化にも寄与。

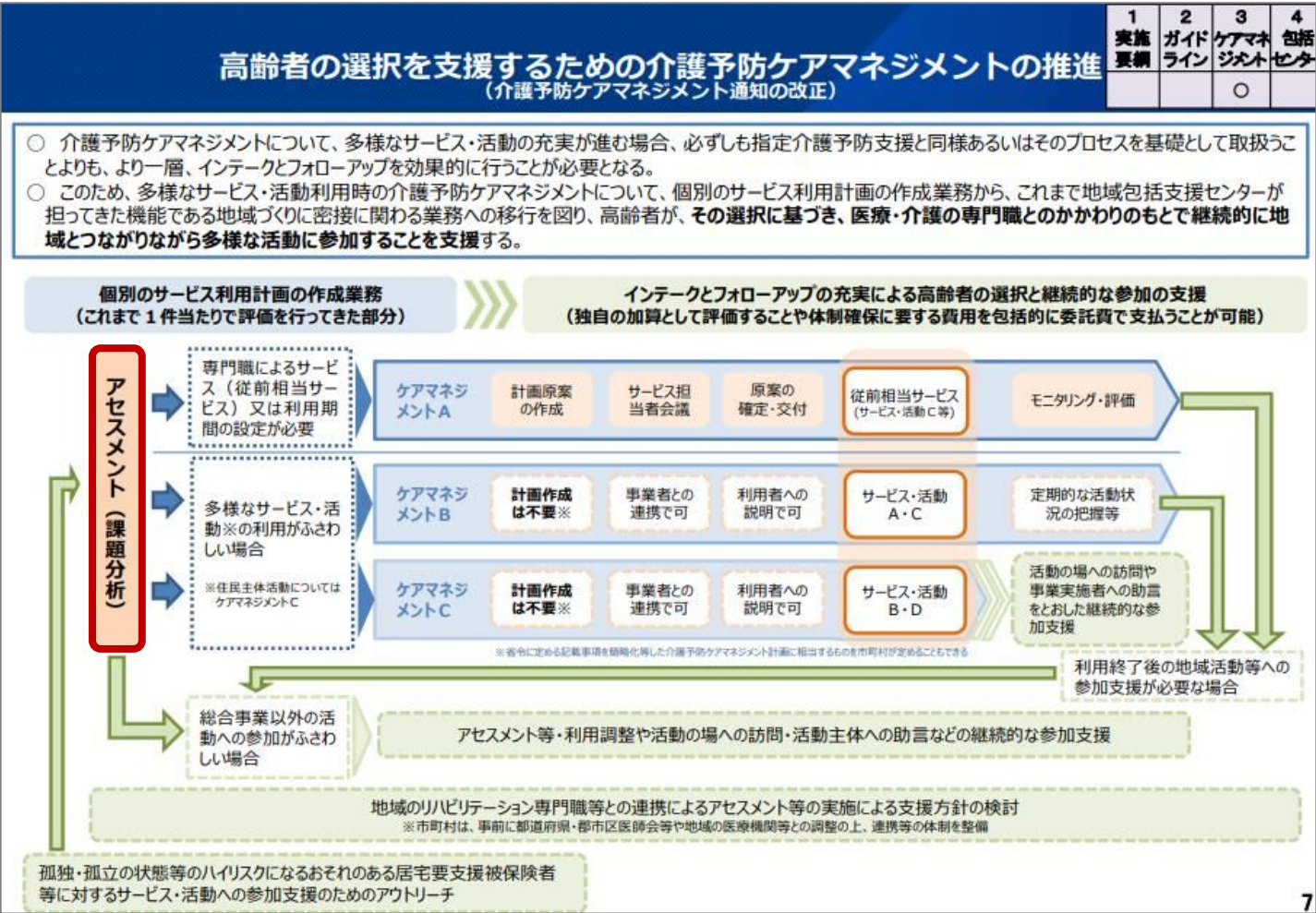
1. 介護予防ケアマネジメントとICTの概要

2. 事業結果：

- ✓ 調査・アンケート結果（包括）
- ✓ 調査・アンケート結果（保険者）
- ✓ 包括さまからのコメント/事業アドバイザー 佐藤さまからのコメント

介護予防ケアマネジメントの起点は “アセスメント(課題分析)”

入り口として “アセスメント(課題分析)” を適切に実施することが、高齢者の多様な活動の支援・選択につながる。



効果的・効率的な介護予防ケアマネジメントを支援するICT

自立支援に資する介護予防ケアマネジメント全体を支援するICTを開発。
スペシャリスト・エキスパートの経験値や専門性をシステム化し、地域包括支援センターの皆さんの業務をご支援。

ICTの特徴

①日常生活動作(ADL/IADL)の工程分析機能



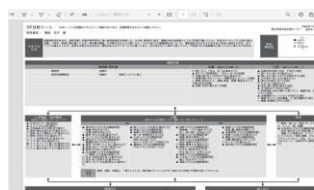
日常生活を工程で分析し、動作を評価する機能。課題となる動きや原因を具体化する事で、短期集中予防サービスなどの介入選択も見極められるように。

②専門分野別6項目のアセスメントシート



専門的かつ多角的なアセスメントを行えるように、6種類の専用シートを用意。各シートが簡単な質問形式で、訪問先での対話にも活用が可能。

③国際生活機能分類(ICF)による分析機能



すべての入力情報は、国際基準で体系化された「ICF分析シート」で閲覧可能。利用者の状態理解や、ご家族との合意形成などにも役立つことができる。

④ケアプラン帳票への文章作成アシスト機能



ケアプラン（介護予防サービス・支援計画表）帳票を記入する際、文章作成アシスト機能を利用可能。文章化への苦手意識や記入時間を軽減を図る。



1. 介護予防ケアマネジメントとICTの概要

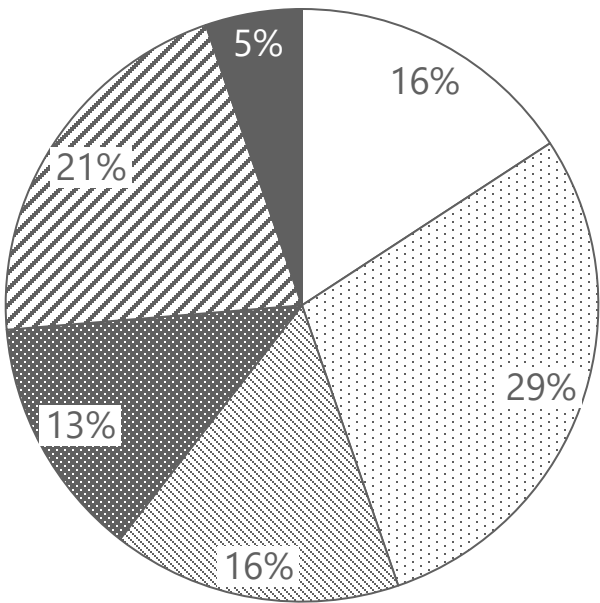
2. 事業結果：

- ✓ 調査・アンケート結果（包括）
- ✓ 調査・アンケート結果（保険者）
- ✓ 包括さまからのコメント/事業アドバイザー 佐藤さまからのコメント

参考）地域包括支援センターのアンケート回答者の属性 (n=34、ICT活用者)

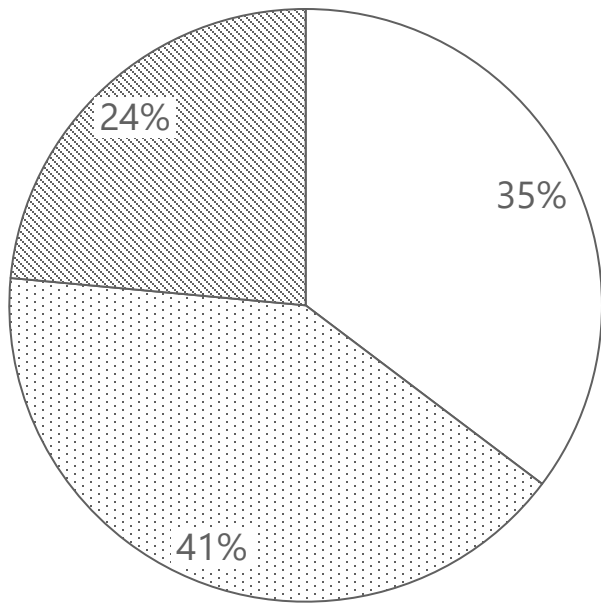
背景職種や経験年数はさまざま、75%の方が40～50年代というのがアンケート回答者の属性。

背景職種
※複数選択は各職種に割り振り



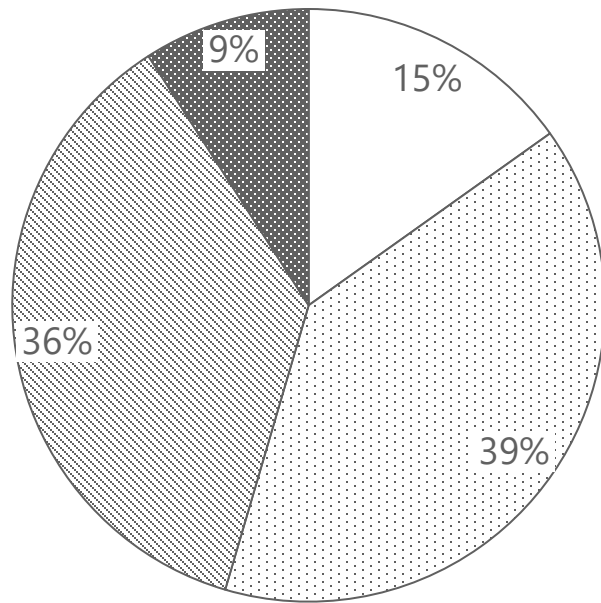
- 主任介護支援専門員
- 介護支援専門員
- 社会福祉士
- 保健師
- 看護師
- その他

介護予防ケアマネジメント年数



- 4年以下
- 5年～8年
- 9年以上

年代

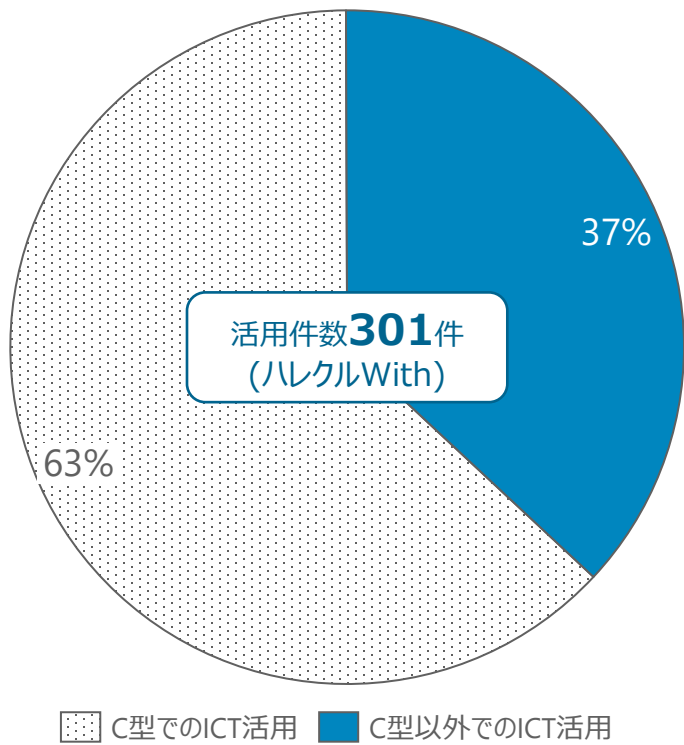


- 30代
- 40代
- 50代
- 60代

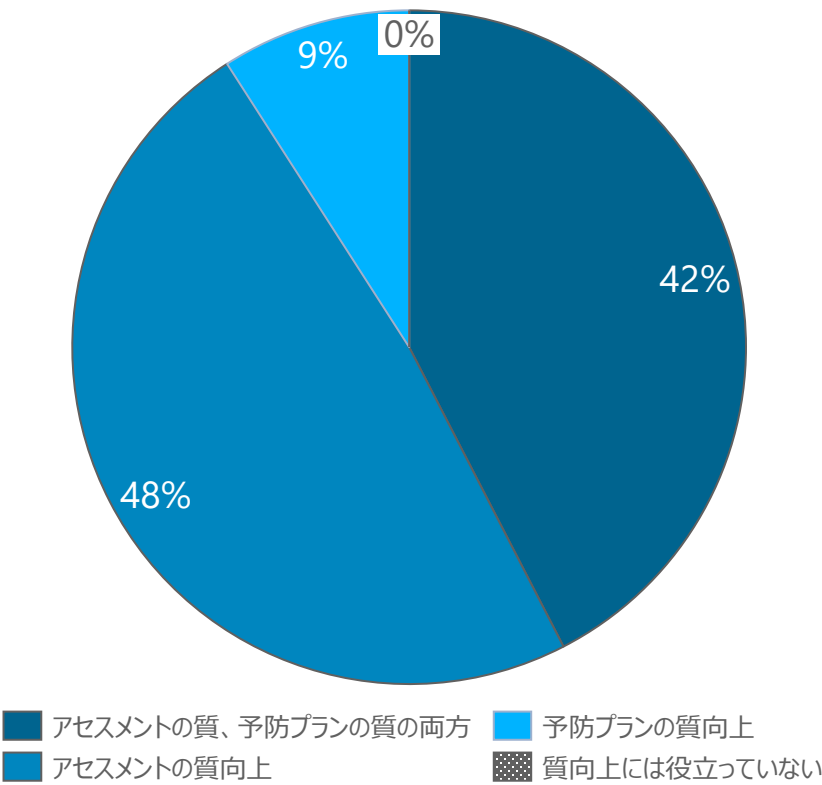
ICT活用件数と、ICT活用による質への影響調査

ICT活用件数は目標KPIを大幅達成、加えて活用者の100%が自立支援に資する質的効果を実感。
今年度は、C型以外の事例に対するICT活用も随分と拡大された結果に。

ICTの活用件数：301件(目標156件)
(N=33, ICT1件以上活用かつ該当設問への回答があった方を抽出, 活用割合は一部9月以前分も含めて試算)

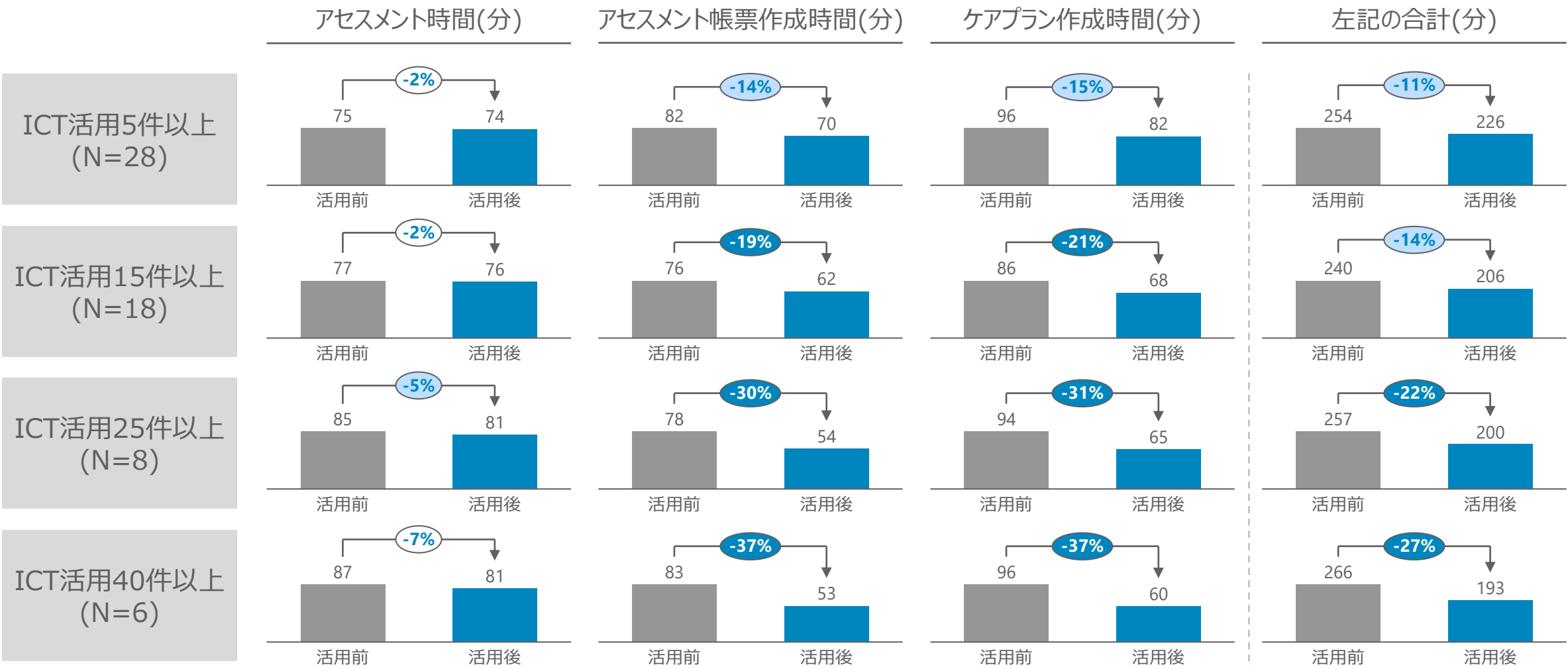


Q：ICTがケアマネジメントの質に役立ったと思いますか？
(N=33, ICT1件以上活用かつ該当設問への回答があった方を抽出)



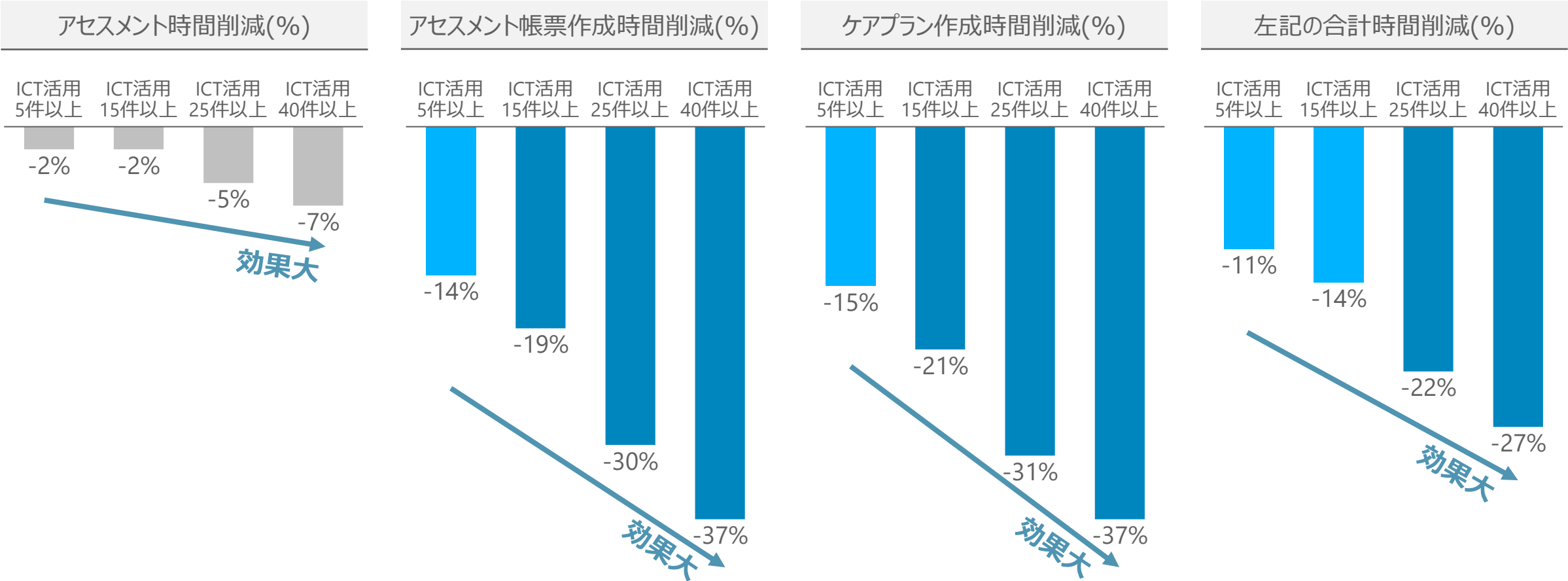
ICT活用による業務効率化（ICT活用件数による比較）

ICT活用件数が増えるほど業務効率化が大きくなる（最大で37%の時間削減率）。



参考）ICT活用による業務効率化（ICT活用件数による比較）

ICT活用件数が増えるほど業務効率化が大きくなる（最大37%の時間削減率）。



※ ICT活用前を100%としてICT活用後の時間を%換算し、差分を計算したもの

1. 介護予防ケアマネジメントとICTの概要

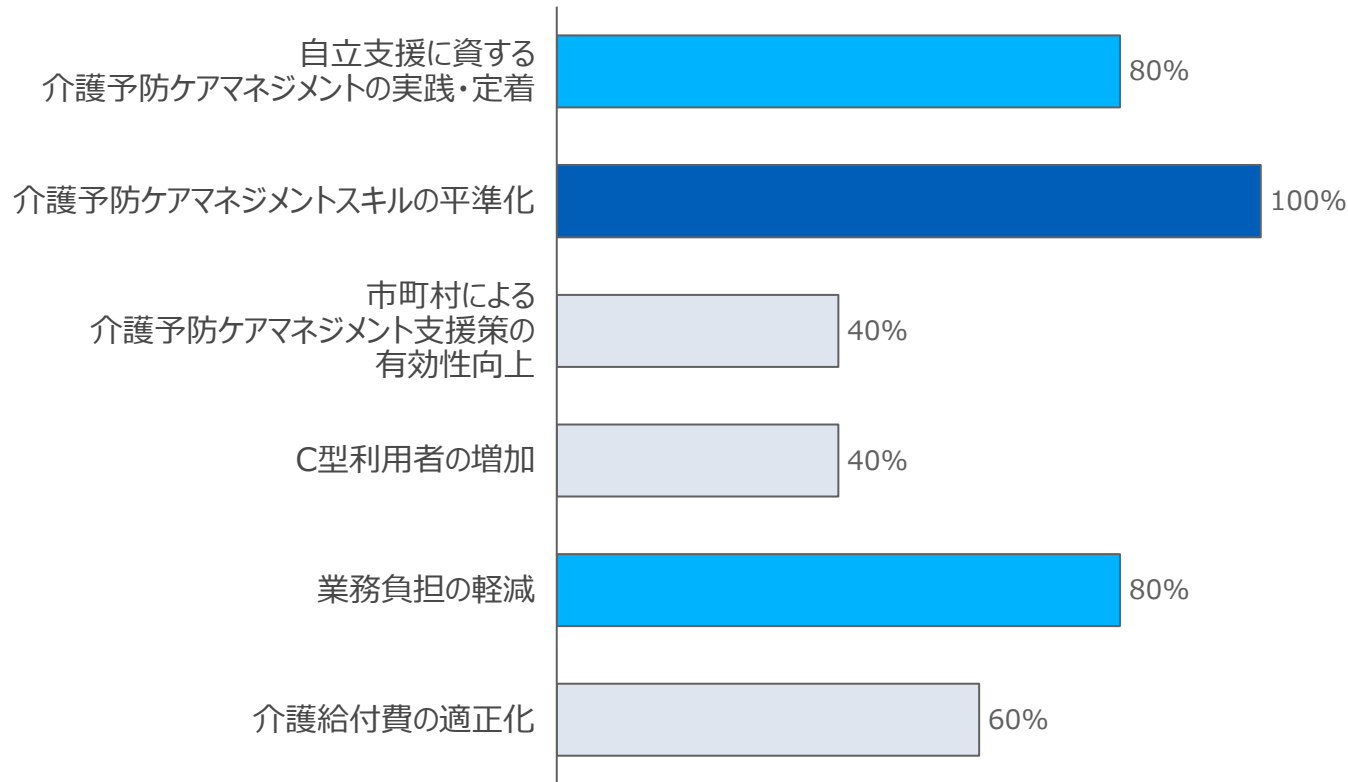
2. 事業結果：

- ✓ 調査・アンケート結果（包括）
- ✓ 調査・アンケート結果（保険者）
- ✓ 包括さまからのコメント/事業アドバイザー 佐藤さまからのコメント

保険者として、ICTによって解決したい課題

保険者目線では自立支援に資する介護予防ケアマネジメントスキルの実践・定着・平準化が第一義。
その上で、業務負担の軽減や、その先にある軽度者の再自立や給付費の適正化が解決したい課題。

Q. ICT導入により解決したい課題について、
該当するものすべてを選択してください（n=5）



Q. 他、具体的な課題や取り組みの方向性

アセスメントの質のばらつきが大きい。

軽度者について再自立を推進したい。

アセスメントの簡素化に伴う業務効率

軽度者の再自立を推進したい、人材不足を見据えたデジタル技術の活用、が必要

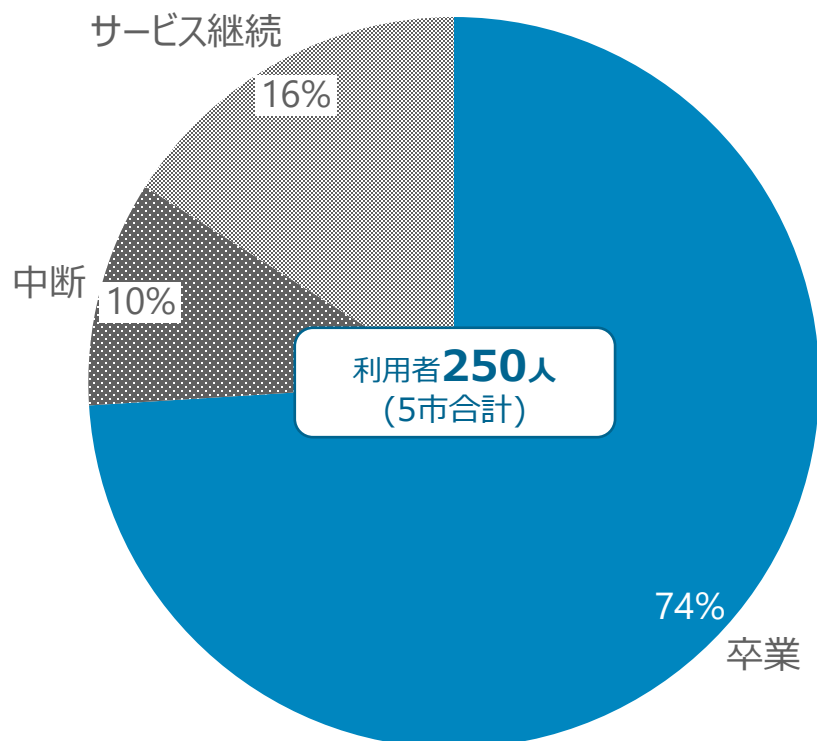
通所Cの効果は高く、把握ルートの拡充により、候補者は待機している状況なので、受け皿の拡充もしていきたいが、**マンパワー不足によりプランが間に合わない現状**がある。そのような中で、もっと解決したい課題は「業務負担の軽減」であるが、活用スキルが途上である現地点では、ICT導入による解決には至っていないのが現状。



本事業における目標・KPI（指標）に対する結果

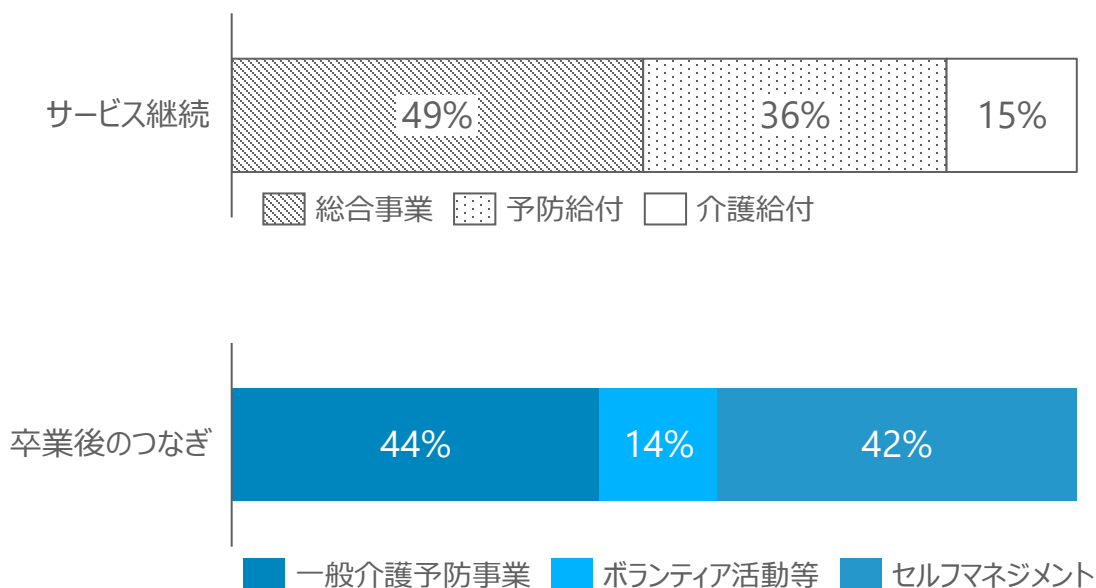
事業KPIであり、大分県全体で推進するC型の卒業率は、74%と高い値で着地。

5市でのC型利用者数と卒業率



※今年度(令和6年度)分で、C型卒業後の状況が確定している方のみ対象。

5市での卒業後のつなぎ先と、サービス継続先



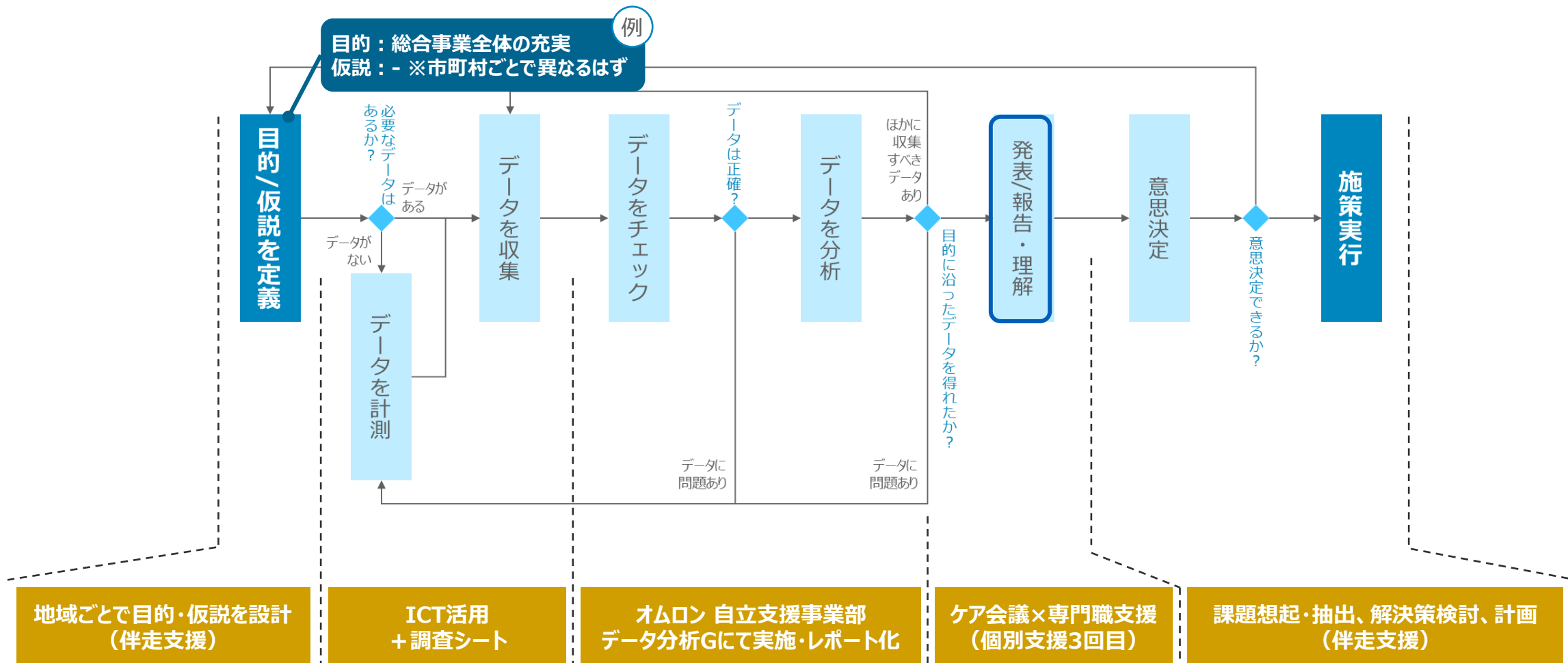
1. データを活用した総合事業/地域支援事業

2. 事業結果：

- ✓ 各地域での事例報告
- ✓ 保険者さまからのコメント/事業アドバイザー 佐藤さまからのコメント

ICT蓄積データだけでなく、調査シートも活用した統合的な分析を実施

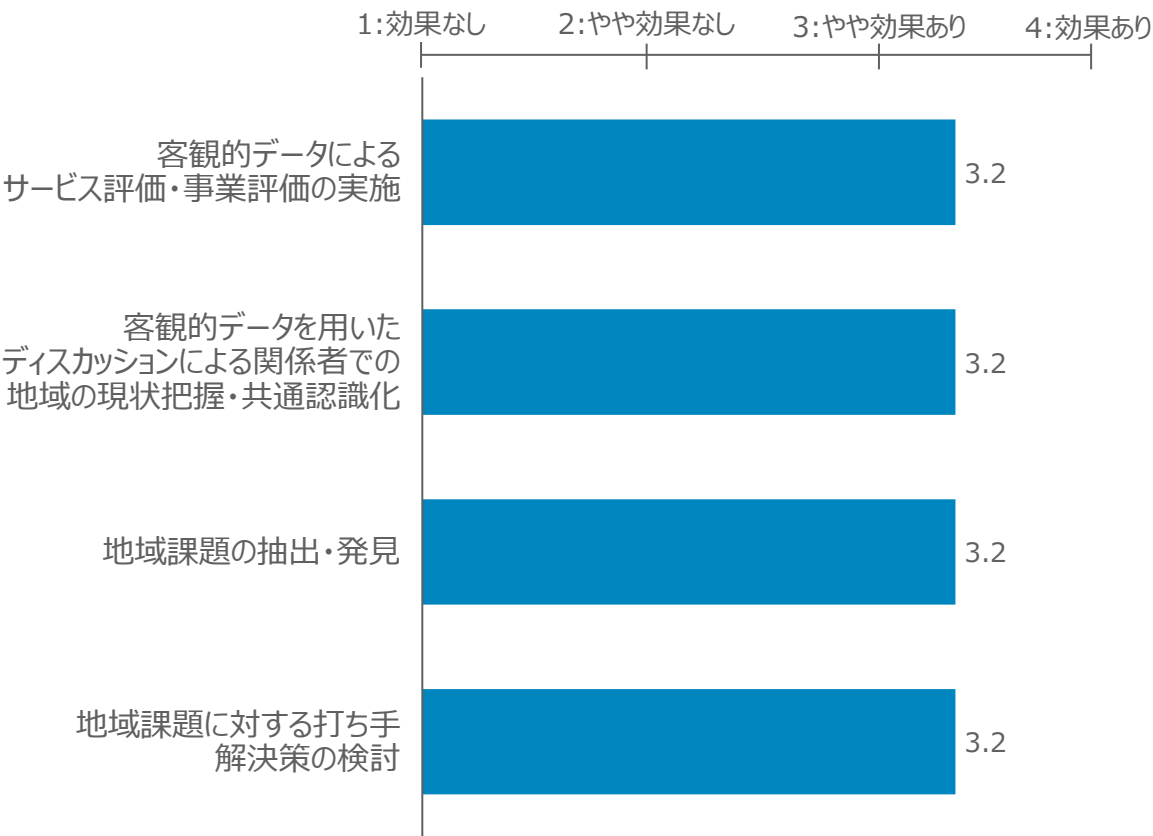
目的・仮説に合わせ、意思決定に資する分析レポートとなるよう、試行錯誤しながら実施。



保険者さんのデータ分析サービスの感想

データにより、課題感が把握できただけでなく、関係者と課題を共有できた・今後の取り組み方向性が示されたことに良い声があがる。

データに基づく事業評価や地域づくりについて、
得られた効果について以下の設問について教えてください(n=5)



フリーコメント（一部抜粋）



データから直接見えない部分についても話が広がり、それが今後の地域支援事業を進めていく上での一方向性となり得るのでとても有意義な会でした。

分析に基づいた入口、出口における課題と、今後の取組の方向性が示されたことは大変よかった。



分析データに加え、他市町村の状況もわかり、より自市のC型サービスの特徴が明らかとなったと感じています。課題抽出に関しても、アドバイスをいただいたことにより、より入り口でのアセスメントの大切さや、C型サービス利用を進める提案力や、合意形成力、そして住民からの理解をえられるようC型サービスの効果の見える化作業など、やるべきことが明確化できたと感じています。

把握ルートの拡充により常時待機がある状況下、対象の絞り込みが課題になっているが、改善の可能性が高い対象者の見極めに必要な視点についてご教授いただきました。今後は通所C利用者における要支援者の割合や、医療機関との連携による把握割合なども新たな評価指標として設定し、スムーズに参加に繋げるために有用な啓発媒体として、改善率や前後比較動画の活用なども検討していきたい。また、卒後の受け皿として、通いの場に限らない就労も含めた社会参加の場への繋ぎを強化していくという今後の方向性について生活支援コーディネータと共有することが出来たのも良かった。



包括さんの“データ利活用後、感想や新たに取り組もうと思ったこと”

総合事業全体を動かしていくためや、明日からできることなど、より良い地域づくりに向けたお声を多くいただいた。



リハ職との情報交換を密に行っていく。



関係者で課題を共有できたことがよかった。具体的な打ち手が明確になったことで来年度に向けた計画に反映できること。

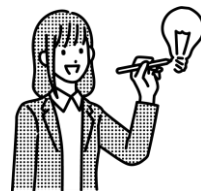
客観的にデータで見ることで、地域性やサービスの効果を知ることができ、問題点も明確化することができた。また、報告会で他の市町村の現状を知ることができ良かった。



C型利用後地域のサロンや趣味の活動等に繋がることで利用直後の状態維持につながると思われるため、利用中からのサービス終了後のことを見据えての利用者との関わりをどのようにしていったらよいか検討していく



C型の入口と出口を意識する中では、横の連携を強めることと、サロンの改良を社協・行政と話していこうと思いました。



男性の通いの設計
地域づくり、就労や役割づくり

総合相談業務の強化
(窓口対応で介護予防マネジメントが実施できること)



今後はもっと多くの人を介護予防事業に参加させられる仕組み（業務、提出書類などの手間を省く）ができればいいなと思っています。



OMRON